

令和7年度 第1回大府市協働推進委員会 会議録

開催日時 : 令和7年5月15日(木) 午後2時から午後3時42分まで
開催場所 : 大府市役所 2階 201・202会議室
出席者 : 昇協働推進助言者、
深谷委員長、鈴木副委員長、成田委員、加藤委員、櫻井委員、
亀山委員、山口委員
事務局(部長、課長、係長、主事)
規則第8条第4項の規定により説明のため出席を求めた者(大府市民活動センター長)の計13名
欠席者 : 宮田委員
傍聴者 : なし

(司会・進行: 協働推進課長)

1 委員長あいさつ

令和7年度の協働推進委員会は今日がスタートとなる。協働推進委員会の本質的な目的がどこにあるか考えた。よく昇先生が、多様なセーフティネットがあることが、大災害などのリスクがあったときに誰も取り残さないように重要であるとおっしゃっていた。いろんな組織や団体があり、マイノリティや弱者を拾うことも大切であるが、その組織を引っ張っているリーダーが育つことが本当の意味で大事なのではないかと思った。私の妻が10年間続けていた英語のサークルを今年の3月で終えた。最初は保護者の横の連携で、お値打ちで質の高い英語教育をこどもに受けさせたいということで、こどもが幼稚園や保育園に入園する頃に呼びかけて始めた。こどもが小学校を卒業すると、自分のこどもではない子の面倒を見てサークルを続けるモチベーションがなくなってきて、いろいろ悩んだ挙句やめることにした。最初はフルタイムで仕事をしながらサークルの主催をすることができると心配していたが、10年も経てば片手間でできるようになった。英語サークルは終わったが、何か問題意識が自分の中で生まれたときに新しい組織やサークルを気軽に始める下地ができたのではないかと思う。おそらく申請団体の建前は提案資料に載っているが、本音は我が子が不登校であったなどの事情があり、団体活動を始めた方もいたのではないかと思った。仕事が忙しかったり、自分のこどもが大きくなり手がかからなくなったりして、モチベーションが下がってしまい、団体の活動が縮小してしまうこともあるのではないかと思う。それはそれで良いのではないかと考えている。団体を立ち上げて、身内だけでなく外部の方も交えて組織を運営して事業を進める経験こそが、大府市で協働できる人材を育てるという点で大事なのではないかと思う。新しい団体もあり、税金を使う事業なので厳しい目も必要であるが、温かい目で励まして応援するという気持ちも大切であると感じた。

2 議題

(1) 令和7年度大府市協働推進委員会について

事務局から、令和7年度大府市協働推進委員会について、資料No.1に基づいて説明

【質疑応答】

委員：日程以外に昨年度から変わった点はあるか。

事務局：日程以外に昨年度から変わった点はない。

(2) 大府市民活動センター令和6年度実績について

センター長から、大府市民活動センター令和6年度実績について、資料No.2に基づいて説明

【質疑応答】

助言者：市民活動のマンパワーを考えると、昔は主婦の方が多かったのではないかと感じた。日本の人口減少の中で当然求められていることではあるが、今まで働いていなかった女性や高齢者に労働者になってもらうということが政府の方針である。これまで社会活動をやっていた主婦が仕事をするようになった。また、これまでは60歳で定年を迎え社会活動をする人もいたが、今は65歳で定年を迎え、将来は70歳で定年を迎えることになる。労働者を確保するという意味では女性や高齢者をマンパワーとして使うことは良いが、実態として市民活動をする主婦や高齢者はその分減っているのではないかと思うがどう感じるか。これから市民活動のマンパワーをどの辺に求めていくか。

センター長：高齢者について、20～30年前は60歳以降のセカンドライフは社会貢献活動をする人が多かったのではないかと感じる。年金も減ってきており、今は体が動くうちは稼ぎたいと思う人が自分の周りには多い。現役世代については、少しでも家庭のサポートをするという人が多い。市民活動を誰に担ってもらうかということについては、若者しかいないと考えている。まるちえはこどもたちにコラビアや公民館に興味を持ってもらうということを目的の1つにした。まるちえという自分の好きなことやる上でコラビアや公民館に来てもらうようにした。今後は登録している市民活動団体を知ってもらい、自分たちができることを考えてもらいたいと思っている。

委員：学生がボランティアをすることによって単位を取得することもできる大学もあるが、そういったアプローチはしているのか。最近ニュースで先生の働き方改革のために中学生の部活が少なくなってきたというものをよく見る。多くの生徒は受験勉強を始める時期は3年生の夏休みではないかと思っている。親の立場からすると、中学生は時間があればあるほど良くないと思う。時間があるときにスマホを見るのではなく、現実で何かやって欲しいと思う。地域活動の中に若者が参加できるきっかけがあると良いと思った。

事務局：団体活動やボランティアをやっている人の中には、コラビアに登録をしている団体もいれば、個人で地域活動をやっている方もおり、お互いが繋がっていないというケースもある。市としては地域で活動している団体や個人を結びつけていきたい。コラビアだけではなく、市としても地域の人材のマッチングを進めていきたいと考えている。

センター長：毎年、至学館大学の学生をコラビア交流会やコラビアまつりのボランティアとして募集し、10人～20人の大学生が集まる。単位を取るための学生もいるが、ボランティアをすることによってコラビアを知ってもらうこともできる。また、一度ボランティアをした学生で次もやりたいと声をかけてくれる学生もいる。人間環境大学にも声をかけている。コラビアまつりについては、市内の中学校や高校にも声をかけており、何人かのボランティアが毎年集まる。5月9日（金）にあった森岡公民館の生涯学習推進委員会に教頭先生が来ていた。今年の8月から部活動を土日に実施しないので、やりたい子はクラブチームに参加したり、その時間で市民活動に参加できないかというお言葉をいただいた。上手くそういった生徒をコラビアのイベントや登録団体の活動に関わらせることができれば良いと感じた。

事務局：健康未来部長をしていたときに、若者会議を開催し、若者を公募して地域課題があればやりませんかという話をした。問題意識を持っている若者は多い。吉田地区行われているサマーフェスティバルは中学生が主体となっている。そこでやってきた子たちが大学生となり、昔より縮小してしまった活動をもう一度復活させたいと思っているようであった。きっかけを上手く持っていくことができれば、活動に参加する若者はいる。

(3) 協働企画提案事業及びNPO法人立ち上がり支援事業の審査方法について

事務局から、協働企画提案事業及びNPO法人立ち上がり支援事業の審査方法について、資料No.3に基づいて説明

- ・本日の委員会で、書類による第1次審査を行う。書類審査を通過した応募団体のみが、第2次審査へ進むことができる。
- ・第2次審査は従来どおり申請者のプレゼンテーション（提案内容）を審査する。

【質疑応答】

委員：第2次審査の結果を当日発表しないということ以外には変更点はないか。

事務局：それ以外に昨年度からの変更点はない。

(4) 協働企画提案事業の第1次審査について

事務局から、協働企画提案事業の第1次審査について、資料No.4に基づいて説明

- ・応募は6件であった。
- ・協働推進助言者及び協働推進委員会委員により、第1次審査を行う。
- ・令和7年度協働企画提案事業交付金応募要項に基づき、「応募書類」「応募対象団体」「応募対象事業」「補助対象経費」の4つの観点から、応募要件を確認する資格審査を行う。
- ・審査内容は非公開とする。

【審査結果】

- ・応募のあった6件は、全て第1次審査を通過した。

(5) NPO法人立ち上がり支援事業の第1次審査について

●事務局から、各団体から提出された申請書類を元に説明。

- ・応募は1件であった。
- ・協働推進助言者及び協働推進委員会委員により、第1次審査を行う。
- ・令和7年度NPO法人立ち上がり支援事業交付金応募要項に基づき、「応募書類」「応募対象団体」「補助対象経費」の3つの観点から、応募要件を確認する資格審査を行う。
- ・審査内容は非公開とする。

【審査結果】

- ・応募のあった1件は、第1次審査を通過した。

3 その他

●事務局より

- ・今回の審議会の謝礼は、後日お振込みさせていただく。
- ・第2回協働推進委員会及び第2次審査（公開審査会）は、6月14日（土）の午後1時から大府市民活動センター「コラビア」にて開催する予定。

—以上—